

牧師 山本護 司式 斉藤美沙子 奏楽 山本恵美

前奏	黙想	祈禱	
讃美歌	12 めぐみゆたけき主を	讃美歌	333 主よ、われをば
祈禱		献金	
信仰告白	使徒信条 566	讃詠	547 いまささぐるそなえものを
聖書	イザヤ書 65:1~2	黙禱	
	ルカによる福音書 13:10~14	主の祈り	564
讃美歌	265 世びとの友となりて	頌栄	544 あまつみたみも
説教	『曲がった腰』	祝禱	後奏

「18年間も病の霊に取りつかれている女がいた。腰が曲がったまま、どうしても伸ばすことができなかった(ルカ 13:11)。「病の霊」とは実際、何であろうか。すべてを現代的な見立てに置換できないが、脊柱か腰部の疾患なのか。私が子供の頃、「腰が曲がったまま伸ばすことができない」老人をよく見かけた。お爺さんよりもお婆さんの方が多かったような気がする。田植え、稲刈り、夏季の草取りなど、地に這いつくばる農民の酷作業は、女たちの負担がことさらに大きかったのかもしれない。

「安息日に、イエスはある会堂で教えておられた(13:10)」。評判高いラビの話を聴こうと、ひしめき合っている会堂内の様子が想像できる。有力者や信仰熱心な男たちが、我先にとイエスの面前に迫っている。そんな会堂の片隅に、過酷な労働のせい、か、「病の霊」によるものか、腰が曲がったまま伸ばせない女がいた。群衆の足許で、ひっそり、イエスの言葉を少しも聞き逃すまいと耳を傾けていた。

「イエスはその女を見て呼び寄せた(13:12)」。イエスのまなざしは、目の前で押し合いへし合いしている者ではなく、なんと、人々の「谷底」でうずくまっている一人の女に注がれた。男たちは渋谷場所を空け、女はイエスの前に招かれた。女の気持ちはどうだったろうか。「病の霊に取りつかれ」人々に蔑視されている女は、公の場に身をさらしたことがない。だからイエスに呼ばれても、喜びでは決してなく、身が細る思いだったろう。隅っこでひっそり、イエスの声だけを聴いていたかっただけに。

イエスは「婦人よ、病気は治った(13:12)」と言い、「その上に手を置かれた。女は、たちどころに腰がまっすぐになり、神を賛美した(13:13)」。この奇跡への周囲の反応については、福音書は筆を押さえているが、その場は驚愕と称賛に包まれただろう。そして人前で声を発したことのない女は、抑圧された感情が溢れ出て「神を賛美」した。ところが最前列にいた会堂長は怒りの(13:14)口調で言う。

「働くべき日は六日ある。その間に来て治してもらおうがよい。安息日はいけない(13:14)」。会堂長の言い草は、それなりに筋通っているが、彼の拒絶感は安息日規定とは別なのではないか。すなわち、イエスのまなざしが、「病の霊」で穢れている女に注がれたことへの嫌悪。神に対して忠実で、多く献金し、社会的な地位も高い自分たちではなく、こんな女が「神の祝福」を受けることへの反感だ。

この安息日の奇跡を読み聞いて、キリスト者である私たちは、どんな決意をするのだろうか。キリストのまなざしが注がれている最底辺の人たちを、もっと心に留めようとするだろうか。恵みが律法化してしまっている教会の硬直を、大胆に作り直すだろうか。両方とも、これまで以上に進めたい。

ただキリストのまなざしは、何より第一に、この私の「腰が曲がったまま伸ばせない」所に向けられている。他者に披瀝できる誇らしい所や、信仰的に褒められる所ではなく、ひっそり痛み苦しむ「曲がった腰」が、神にとって大事なものとして見いだされる。抑圧され、理解されず、取るに足らない私の隅っこが見つけられて、愛され、解放される。人に褒められる比較など、もうしなくともよい。

「ありのまま」が十全に愛されるのだが、私たちは己が「ありのまま」を見つけれない。だからキリストが私たちの「ありのまま」を見つけ、愛し、解き放つ。私たちの身は細っても、自由になる。

「叛逆の民にも手を差し伸べてきた(イザヤ 65:2)」 目の前に「見いだされる “私” (65:1)」が示され認めてもらいたい “私” が無視されている 会堂長らはそのような形で 「手を差し伸べられた」

本日礼拝後に役員会があります。7/6(水)13:00~15:00、教会カフェ開店。7/9(土)13:30~15:00 聖書研究会。牧師の動き:7/5 分区教師会(日下部教会)、7/6 山梨 YMCA で聖書のおはなし。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。